

東京大学-アジア女性大学合同サマープログラム(於 東京大学)

“The University in the Changing World: Re-envisioning Higher Education and Global Citizenship”

(変わりゆく世界における大学: 高等教育とグローバル市民性)

募集要項

2026.5

【留意事項】

(1) 募集に関する情報・応募書類等は一部変更される場合があります、また有益な情報・よくある質問等を後日追加して掲載する場合もある。よって、最新情報を必ず次のウェブサイトを確認すること。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-oncampus-utokyo-auw-summer.html>

(2) 本プログラムは UTokyo Global Unit Courses*の一環として実施される。

*UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) は、[東京大学グローバル教育センター \(UTokyo GlobE\)](#) が提供する海外の学生向けの短期受入プログラムである。世界中の優れた学生が登録するこのプログラムには、東京大学の学生も参加することができる。受講修了者には東京大学グローバル教育センターが発行する「グローバル・ユニット」が付与される(所属学部等が認定する通常の単位は付与されない)。なお、東京大学-アジア女性大学合同サマープログラムに参加するのは、アジア女性大学と東京大学の学生のみである。

(3) 本プログラムは、一般財団法人ファーストリテイリング財団からの支援のもと実施される。

1. 概要

世界各地において、大学は国家形成、知の蓄積や経済発展、社会革新などにおいて重要な役割を果たしてきた。それと同時に、大学と国家や産業、市民社会との関係はきわめて複雑なものでもあり、21世紀においてそうした問題はさまざまな形で表出しつつある。本プログラムでは、移民・難民という大きなテーマのもと、東京大学とアジア女性大学(AUW) (※1)という、きわめて性質を異にする二つの大学の学生が共に集うことを活かして、世界における高等教育の歴史と現状、変動する世界における大学の社会的役割、高等教育における多様性と包摂性、現代において求められる大学のありかたなどを議論しながら学ぶ。

プログラムにおいては、東京大学内外の専門家に依頼し、以下のようなテーマについて、講義・ディスカッション・ワークショップやフィールドトリップなどのアクティブ・ラーニングを中心としたセッションが展開される。また、このほか期間中に複数回、バングラデシュの情勢やベンガル語について学ぶレクチャーが設けられる。(同時間帯、AUWの学生は日本語の講座を受講する。)

- ・近代国家・帝国における大学
- ・大学とジェンダー
- ・大学と人種・民族
- ・移民・難民と高等教育
- ・留学と国際交流
- ・大学における学生の位置づけ・役割

プログラムの終わりには学生と学内外の関係者が参加するシンポジウムを開催し、プロジェクトの成果を共有する。プログラム終了後には、参加者へ修了証が授与される。

授業やシンポジウム以外に、東京近郊への日帰りエクスカッションや文化体験、ファーストリテイリング財団役員との面談・同財団でのワークショップも予定している。プログラム期間中、公式セッションの無い時間は自由時間とし、AUWの学生とともに東京の街を散策し、文化施設等の訪問や食事をともにすることができる。

※1 アジア女性大学(AUW):バングラデシュのチッタゴンにあり、女性の教育とリーダーシップの涵養を目的として2008年に開学した。バングラデシュだけでなく、アフガニスタン、ミャンマー、インド、ネパール、ブータン、シリアなど南アジアを中心に、貧困や戦争、政情不安、民族差別や性差別を理由に高等教育へのアクセスのない、主に「ファーストジェネレーション」(家族の中で初めて大学に行く世代)の優秀な女性に奨学金を提供し、リベラルアーツ教育を実施している。ウェブサイト: <https://asian-university.org/>

※2 授業担当予定者(募集要項公開時点):

- ・矢口 祐人 (東京大学 副学長/グローバル教育センター長/大学院総合文化研究科 教授)
- ・川添 善行 (東京大学 生産技術研究所 准教授)
- ・新田 万里江 (武蔵大学 国際教養学部 講師)
- ・村山 真弓 (前 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 理事)
- ・Chelsea Szendi Schieder (青山学院大学 経済学部 教授)
- ・宇野 重規 (東京大学 社会科学研究所 教授)
- ・中野 円佳 (東京大学 多様性包摂共創センター 准教授)
- ・小檜山 ルイ (フェリス学院大学 学長)
- ・高橋 史子 (東京大学 大学院総合文化研究科 准教授)
- ・柳 定賢 (東京大学 グローバル教育センター 講師)
- ・日下部 尚徳 (立教大学 異文化コミュニケーション学部 准教授)

プログラムコーディネーター:

- ・吉原 真里 (東京大学 グローバル教育センター 副センター長・教授/ハワイ大学マノア校 アメリカ研究学部 教授)

2. 期間

2026年7月27日(月)～8月6日(木)

(8月2日(日)は授業・アクティビティ等のセッションは実施しない)

3. 募集人数・対象者

学部学生 12名

※[国際総合力認定制度 Go Global Gateway \(GGG\)](#) のオンデマンド基礎講座の受講(動画の視聴と確認テストへの回答)を完了していることが必須。

4. 費用

19,000円

(講義受講料のほか、日帰りのエクスカージョンやシンポジウムでのレセプション参加費なども含む)

※プログラム参加決定者は、指定された方法で支払うこと。詳細は参加決定後に通知する。

※自宅と本郷キャンパス間の交通費は参加者負担とする。また、プログラム参加を目的とした通学定期等の発行は行わない。

※プログラム外の活動等により発生する諸費用は参加者負担とする。

※やむを得ず講義やエクスカージョン等に不参加となった場合でも、返金は行わない。

5. 募集からプログラム終了後までのスケジュール(予定)

6月1日(月) 17時	本部国際教育推進課への問い合わせ締切
6月3日(水) 17時	応募締切、国際総合力認定制度オンデマンド基礎講座の受講締切
6月中旬～下旬	選考・結果通知
7月1日(水) 18時～20時	事前オリエンテーション(対面) 1回
7月上旬～中旬	AUWの学生との交流セッション(オンライン) 1回
7月27日(月)～8月6日(木)	プログラムの実施(※1) ◇ プログラム期間中は、8月2日(日)を除き、原則9時頃～17頃に授業等のセッションが行われる。また、このほか夜間(～20時頃)にもアクティビティ等が行われることがある。プログラム期間中の詳細なスケジュールは、参加決定者へ後日通知する。
プログラム終了後	事後課題 提出(※2) 国際総合力認定制度の修了申請(該当する者のみ)

※1:本プログラムは東京大学本郷キャンパス等で実施する。

※2:事後課題の提出をもって本プログラムを修了したものとみなす。

6. 応募資格・要件

以下の要件をすべて満たすこと。

- (1) 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway, GGG) におけるオンデマンド基礎講座の受講 (動画視聴と確認テストへの回答) を完了していること。受講の所要時間の目安は約 100 分。
オンデマンド基礎講座: <https://forms.office.com/r/hJkNXSbYL2> ※UTokyo Account でログイン
- (2) 中級程度の英語能力 (Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) の B1~B2 レベル) を保持していること。何らかの英語能力の証明書を提出することが望ましいが、所持していない者も応募できる。ただしその場合は、上記 CEFR の基準を確認のうえ応募すること。
- (3) 応募時およびプログラム参加期間を通じて、本学の学部正規課程に在籍していること (プログラム期間中に卒業等により本学学籍を失う者は参加できない)。
- (4) 本プログラムに参加するにあたり、本学の授業履修に関して特別な配慮はないことを理解し、本学の授業・試験期間、その他各自の予定等を応募前に十分確認し、全日程参加が可能な場合のみ応募すること。なお、本学からの参加可能人数には上限があり、選考後に辞退すると他の学生の機会を失うことにつながるため、応募後の辞退は原則として認められない。
- (5) 所属学部において、本プログラムへの参加により授業または試験に出席できない場合でも特別な配慮措置は取られず「欠席」扱いとなること、また、欠席による追試験の申請理由にもならないことを理解すること。なお、詳細は所属学部を確認すること。
- (6) 本プログラム参加時における本学の指導教員等が既に分かっている場合は、本プログラムに応募することを事前に報告し、了承を得た上で UTAS 申請画面の所定欄に了承を得た日付を記入すること。該当する教員等がない場合は、「指導教員なし」と入力すること (7. 応募方法・応募書類(3))。
- (7) 海外大学からの学生との授業の受講、英語学習、異文化体験に興味を持っていること。

7. 応募方法・応募書類

- (1) 本プログラムは海外への派遣を伴わないが、応募は学務システム (UTAS) の「海外派遣」機能を通じて受け付ける。応募締切日時までに UTAS からの電子申請を完了させること。

◇ 応募締切以降、電子申請システムは閉じられ、申請は一切受け付けない。また大きな不備 (特に募集要項や UTAS 電子申請画面に表示される青字の説明に沿っていない不備) のある申請は締切前に申請を完了しても受理されない可能性があるため、余裕を持って書類を作成・確認し、応募すること。応募締切後も差し戻し等の可能性がある。申請について差し戻しを受けた場合は、指定される期日までに再提出すること。(応募締切前後は特に、本部国際教育推進課からのメールに留意すること。)

- (2) 本プログラムは UTokyo Global Unit Courses (GUC※) の一環として実施されることから、応募に際しては GUC への出願に必要となる以下の書類の確認が求められる。これらの書類は、本募集要項とともに掲出されるリンク、または、7. 末尾の【応募書類指定書式のダウンロードリンク】よりダウンロードすること。

※UTokyo GUC: <https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html>

◇ Consent Form (PDFファイル) :

内容を確認のうえ、記載内容について了解する旨と氏名・日付を「16. Consent Form」の欄に記入すること。

◇ Terms and Conditions (PDFファイル) :

内容を確認のうえ、「17. 募集要項、GUC Program Terms and Conditions に記載の事項について」の欄に「はい」と入力すること。

- (3) UTAS 電子申請画面に表示される指示・説明をよく確認し、その通りに入力すること (以下は特に注意が必要な項目)。

- ◇ 「2. 基本情報」および「4. 家族等関係者の連絡先」は申請画面では記入・変更できない。そのため記入または変更が必要な場合は、応募時の所属学部の担当係に記入・修正方法を確認し、正しい内容を記入した状態で申請すること。
- ◇ 「3. 申請者本人の連絡先」E-Mailは、本プログラムに関するやり取りに使うため、添付ファイル等も受信できる利用し易いメールアドレスとすること。本プログラムに関する連絡に際して、当欄に記載されているもの以外のメールアドレスの使用を希望する場合には、「14. 連絡先メールアドレスについて」にそのアドレスを記載すること。
- ◇ 「6. プログラム中の所属・学年」指導教員等氏名について、いない場合は「なし」と入力すること。いる場合は、「18. 指導教員への連絡」に了承を得た日付を入力すること。
- ◇ 「7. 成績評価係数」について、東京大学以外の高等教育機関で単位を取得した場合は学外成績証明書（成績評価基準が分かる部分を含むこと）を提出すること。なお、2026年4月入学者の場合、評価係数は「0.00点」と表示されるが、本部国際教育推進課での受領・確認時に換算するため、出願者による入力等は不要。
- ◇ 「14. 本プログラム参加を希望する理由」には、志望動機を日本語の場合800字程度、英語の場合400 words程度で記述すること。また、記載した字数／Word数を各自でカウントし、志望理由の末尾にカッコ書きで明示すること。
- ◇ 「15. 連絡先メールアドレスについて」は、UTAS上の指示に沿って確認・入力すること。

(4) 電子申請時に「20. 添付資料」でアップロードする書類については以下を参照すること。

応募書類	対象者	提出方法・備考
学外成績証明書（評価基準が分かる部分を含むこと）*PDF形式	該当者のみ	東京大学以外の高等教育機関で単位を取得した場合は提出すること。原本をもとに、「7. 成績評価係数」を入力すること。
語学能力証明書 *PDF形式		語学能力証明書を保持している場合は提出すること。
TOEFL iBT, IELTS	保持者のみ	電子申請時「9. 語学能力」で入力した場合は要提出（※1※2）。証明書が複数ある場合には、全て一つのファイル（PDF）にまとめて提出すること。
TOEFL iBT, IELTS以外		
英語能力試験等を受験していない場合	該当者のみ	電子申請時に「9. 語学能力」にその旨を入力すること。

(※1) 語学能力証明書 (TOEFL iBT, IELTS) (応募締切日時時点で、有効期限内のものとする。有効期限は各試験実施団体等のホームページ等の公式情報を参照のこと。)

次のいずれかの提出を受け付ける。

- ・ TOEFL iBT または IELTS (アカデミック・モジュール) のスコアの写し (受験後にウェブ上で確認できるスコアの写しでも可)

(※2) 語学能力証明書 (TOEFL iBT, IELTS 以外)

TOEFL iBT または IELTS (アカデミック・モジュール) のスコアを所持していない者や、TOEFL iBT または IELTS (アカデミック・モジュール) のスコアに加えて他の語学能力証明書を持っている者は、以下のいずれかを提出することができる。

- ・ TOEFL ITP, TOEIC、実用英語技能検定のスコアの写し。
- ・ その他の英語能力試験等の成績証明書を提出する場合は、その成績証明書の写し、および、その英語能力試験等に関する説明文書 (様式任意)。説明文書の内容には、試験概要や、上記の英語能力試験への成績換算表等を含めること。
- ・ 英語以外の語学能力試験のスコアの写し。

【電子申請応募先】

学務システム(UTAS)にログイン後、画面上部にある「海外派遣」のタブより申請すること(「プログラム申請の手引き」を参照すること)。

◇ 学務システム(UTAS): <https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>

◇ プログラム申請の手引き: ※UTokyo Account で閲覧可
https://univtokyo.sharepoint.com/:f:/s/msteams_8b031a-32/IgCSnOlqBWPFRbtR7834BJ_WAU42Orr_lsy_Xj8ITYaT6H8?e=2EWvnT

【応募書類指定書式のダウンロードリンク】

<https://drive.google.com/drive/folders/1kl4TU1jEPttLgGiagQGtVarah35BmZ0k?usp=sharing>

8. 応募締切

2026年6月3日(水) 17時(日本時間)

※本部国際教育推進課への問い合わせは6月1日(月)17時まで

9. 選考

- (1) 原則、選考は書類審査による。なお、参加者の多様性の観点から、ジェンダー・学年・専攻に基づき募集者の選抜を行う可能性がある。
- (2) 合否結果等についての連絡は電子メールで行うため、応募後は定期的に UTAS での申請時に記載した電子メールアドレスを確認すること。重要な連絡が迷惑メールフォルダに振り分けられてしまう例もあるため、注意すること。
- (3) 申請時に並行して他のプログラムへの参加を申請中、あるいは参加が決定している場合は、その旨を UTAS での申請時に「10. 併願状況」欄に記入すること。

10. 選考通過～プログラム参加の際の留意事項

- (1) プログラムへの参加が決定した場合、指導教員等の関係者には事前に連絡して伝えておくこと。
- (2) 事前オリエンテーションおよび AUW の学生との交流セッションに必ず参加すること。授業や試験等やむを得ない理由により参加が難しい場合には、早めに本部国際教育推進課国際支援チームに連絡すること。
- (3) やむを得ない事情により参加を辞退しなければならない場合には、採否結果の受領前であっても遅滞なく本部国際教育推進課国際支援チーム (go-gateway.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp) に連絡すること。
- (4) プログラムの趣旨を理解のうえ十分な学習成果を挙げ、プログラムを修了するよう努めること。
- (5) プログラム中に動画や写真の撮影があること、また、将来それらがグローバル教育センターの広報素材や本学の教育素材として使用される可能性があることを予め了承すること。

11. 事前オリエンテーション・AUW の学生との交流セッション

7月に実施される、事前オリエンテーション(対面形式)1回およびAUWの学生との交流セッション(オンライン形式を予定)1回に必ず参加すること。また、プログラム初日の7月27日(月)午前中に東大参加者のみの交流セッションを設ける予定。各セッションの詳細は確定次第、参加決定者に通知する。

日時	内容	内容詳細
7月1日(水) 18時~20時	事前オリエンテーション(対面)	・プログラム内容等の説明 ・AUWに関するドキュメンタリー視聴と意見交換
7月上旬~中旬	AUW生との顔合わせ(オンライン)	詳細は確定次第通知 ※1時間程度の見込み
7月27日(月)午前	東大参加者の交流セッション(対面)	詳細は確定次第通知

12. 参加後の報告等

- (1) プログラム終了後に事後課題を提出すること。課題の詳細や提出期日等は別途指定する。
- (2) プログラム終了後に国際総合力認定制度 (Go Global Gateway, GGG) の修了認定を申請すること (本プログラムは、GGG の要件「④海外体験」に該当する)。既に認定済、または認定申請中の場合は、再度申請する必要はない。また、前期課程修了要件となっている外国語科目の単位を未取得の場合には、全単位取得後に認定申請を行うこと。

認定申請フォーム：<https://forms.office.com/r/bKvXBBemnD> ※UTokyo Account でログイン

- (3) UTAS での応募時に記入した住所や電話番号、メールアドレスに変更があった場合は、本部国際教育推進課国際支援チーム (go-gateway.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp) へ連絡すること。プログラム終了後も必要事項の連絡の際に必要となるため留意すること。
- (4) 参加学生には、プログラム参加後、報告会や説明会への参加のほか、本学の国際化に関する業務への協力 (プログラムの広報や学生へのアドバイス、アンケート調査等) を依頼する場合がある。依頼があった場合、やむを得ない事情のない限り協力すること。

13. 問い合わせ先

電子メールで問い合わせる際には、必ず件名・氏名・学籍番号・所属・学年・電話番号を明記すること。

本部国際教育推進課国際支援チーム (go-gateway.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)

14. 参考情報

昨年度実施されたアジア女性大学との合同サマープログラム (2025/7/28~8/7 於東京大学) および同テーマで実施された合同ウィンタープログラム (2026/2/28~3/13 於アジア女性大学) の様子は、東京大学グローバル教育センター (UTokyo GlobE) のウェブサイト上で公開されている。

・サマープログラム実施報告:

https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/news/news_250807.html

・ウィンタープログラム実施報告:

https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/news/news_260314.html

以上